

NERIC News

No.296 / 2009年2月号

(1979年創刊・年間10回発行)

Nuclear and Energy-Related Information Centre(NERIC)

核・エネルギー問題情報センター(旧・原子力問題情報センター)

発行人：中嶋篤之助(代表理事) 編集人：吉田 康彦(常任理事)

事務局長：館野 淳(常任理事)

事務局所在地：〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-42-1-505

TEL/FAX 042-247-8581 E-mail: eng-tat@parkcity.ne.jp

HP: <http://www1.parkcity.ne.jp/eng-tat>

郵便振替口座 00120-1-74759

年間購読料 4000円(送料込) 一部頒価 400円(送料別)

目次

【巻頭言】	
日本の“核武装”への危険信号	
儀我壮一郎	1
【解説】	
原子炉開発路線の経緯と矛盾	
森 一久	2
【報告】	
韓国における原子力発電の現状【Ⅱ】	
野口 邦和	4
【資料】	
六ヶ所再処理工場関連年表【その2】	6
【展望】	
オバマ政権下で核廃絶は実現しない／期待過剰の戒め	
吉田 康彦	7
【トピックス】【書評】	
【総会・理事会のおしらせ】	8

■巻頭言

日本の“核武装”への危険信号

——田母神前空幕長問題の歴史的文脈

儀我 壮一郎

右派の月刊誌『will』の1月号は「田母神論文ど
こが悪い!」、さらに2月号は「田母神論文を殺す
な!」という特集を組んでいる。ここでは、日本の
“核武装”についての2月号の危険な論調を紹介し、
コメントしたい(引用の頁数は同誌同号)。歴史的順
序を追って整理しよう。

①「吉田茂さんは、晩年『こうなったら日本も一つ
核武装を考えてみませんか』と演説し、次の日の
新聞が大騒ぎになったことがあります」(堤克氏の
発言、70頁、堤氏は元『文芸春秋』編集長・出
版総局長・常務)。日時が不明確。再確認が必要。

②「私は官房長官時代、早稲田大学の講義で、『岸信
介の「小型戦術核の保有は違憲ではない」という
答弁があります』といましたが、これが『とん
でもない発言だ』と非難されました。……事実を
教えるのも駄目なんて、まるで焚書坑儒の時代の
ようです」(安倍晋三元首相の発言、69頁)。小型
戦術核は全面核戦争の導火線になることを確認し
ておこう。

③ 次は、田母神俊雄前空幕長の最後の発言(37-
38頁)。これが愛国のサムライか?

「非核三原則は絶対遵守!!」という宗教のよう
な考え方はやめるべきですね。私は『ニュークリ
ア・シェアリング・システム』(平時はアメリカ
が核を持っていて合同演習を行い、戦時になった
時に渡してもらう。アメリカはNATO加盟国に提
供している)の議論をすべきだと思うのですが、
それすら許されない。／日本自ら所有しなくても、

このシステムが取れば核抑止力は格段に向上す
るし、アメリカは日本から逃げられなくなる。アメ
リカが経済的に衰えていくことを考えると、約束
どおりに守ってくれるかどうか分からない。米軍
だって撤退するかもしれない今、必要な論議だ
と思います。／こういうことが政治の中で議論に
ならない。必要だと思うから自衛官が発言すると
『軍靴の音が聞こえる』『過激派』などと非難され
るわけです」。

田母神前空幕長は、まず米国の核兵器に便乗し
次に、「渡してもらう」ことで自衛隊の「核武装」
を目指す。この方法で、日本を軍事的に見捨てない
ように、米軍を引き止めると主張する。親交のある
アバグループの元谷外志雄代表は「核武装」論者
である。元谷代表は、積極的「改憲」論の森喜朗元
首相、安倍晋三元首相と協力関係にある。久間章生
元防衛大臣には「原爆投下」容認発言がある。

④ 麻生外相(当時)は、北朝鮮のミサイル騒動の
とき、ライス(前米国务長官)に「日本も核の保
有を考えざるを得ない」といった。中川昭一氏も
テレビで「憲法でも核保有は禁止されていない。
議論はあっていい」と発言した。(堤克氏の発言、
69頁)。臨界点!

【大阪市立大学名誉教授・商学博士】

(編集部注：1928年関東軍は張作霖の乗った列車を爆破・殺
害したが、張作霖の軍事顧問として同乗していた儀我誠也少佐
は九死に一生を得た。儀我壮一郎氏は同少佐のご子息で、『張
作彬爆殺事件の真相』などの論文を執筆されている。)